

もくじ

■ 地理総合（地総 002-901）

1	学習の到達目標	2
2	科目の特色	2
3	学習の計画	3
4	評価の方法	17

地 理 総 合	単位数	2 単位（70 時間）
	学科・学年・学級	〇〇科 第〇学年 〇組
使用教科書、副教材等	東京書籍『地理総合』（地総 002-901）、 『地理総合 ワークノート』（東京書籍）	

1 学習の到達目標

- ① 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けます。
- ② 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養います。
- ③ 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深めます。

2 科目の特色

持続可能な社会づくりを目指し、環境条件と人間の営みとの関わりに着目して現代の地理的な諸課題を考察することに加え、グローバルな視座から国際理解や国際協力のあり方を、地域的な視座から防災などの諸課題への対応を考察し、地図や地理情報システム（GIS）などを用いることで、汎用的で実践的な地理的技能を習得する科目です。そのために、作業的で具体的な体験をともなう学習をより一層重視して、さまざまな諸課題を日常生活と関連づけて取り扱い、地理的な技能を身に付けるとともに、地理学習の有用性に気づき、学習意欲を高めることに配慮した内容や方法を工夫しています。現代世界や生活圏の諸課題について、主に主題的な方法を基にして学習できるようにしているのも、そうした点をふまえたものです。

これらのねらいが達成できるよう、地理総合は以下のように構成されています。

第1編では、地図や地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付けるとともに、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて学習します。

第2編では、国際理解や国際協力の重要性を認識することを主なねらいとして、特色ある生活文化と地理的環境との関わりや、地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題、居住・都市問題及び民族問題などの地球的課題の解決の方向性について学習します。

第3編では、さまざまな自然災害に対応したハザードマップなどの地理情報を活用する技能を身に付けるとともに、日本の自然環境の特色、自然災害への備えや対応などについて学習します。また、防災を含めた身近な地域の諸課題についても地域調査の手法を生かしながら学習します。

これらの学習を通じて、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で

民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指します。

3 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
4月	第1編 地図や地理情報システムでとらえる現代世界 第1章 地図と地理情報システム 1節 私たちが暮らす世界	1 緯度・経度 【24時間、地球は眠らない。】	○地軸の傾きや自転・公転による影響を理解します。 ○地球上には常に昼と夜が存在することを理解し、時差の影響やそれに対する工夫を考えます。	○世界各地における、太陽高度や昼夜の時間の季節変化と、標準時を確認し、緯度や経度との関係について考えます。 ○時差を利用したグローバルな活動の例を把握します。
		2 地球儀と世界地図 【丸い地球を、平らな紙に正しく描けるだろうか。】	○地図にはさまざまな種類が存在することについて理解します。 ○平面の地図では地球を正確に表現できないことを理解し、用途に応じた地図の利用法を考えます。	○地球儀上で方位や距離を計測し、さまざまな世界地図での描かれ方と比較することで、世界地図の特徴を考えます。
		3 日本の位置と領域 【小さな島が、大きな意味をもつのはなぜ？】	○日本の位置と領域について理解します。 ○排他的経済水域について理解し、その重要性について考えます。	○領土問題発生背景が国益の衝突にあることをふまえ、問題を平和的に解決するための方法について考えます。
	2節 地図や地理情報システムの役割	4 地図の種類 【地図を使わない人は、ほとんどいない。】	○私たちの生活にさまざまな地図が利用されていることを理解します。 ○多様な地図が生活を便利にしていることを理解し、地図利用のさまざまな可能性を考えます。	○さまざまな種類・表現の地図を取り上げ、その役割について考えます。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
5月		5 地形図のルール 【地形や土地利用の歴史がひと目でわかる。】	○地形図から読み取れることについて理解します。 ○地理院地図の特徴を理解し、紙の地形図との違いについて考えます。	○地形図を用いて土地利用や地形など基礎的事項について読み取ります。
		6 主題図の種類と読み取り 【このテーマ、どんな地図で表すべきか。】	○主題図にはさまざまな表現方法があることを理解します。 ○主題図の表現方法の特徴を理解し、用途に応じてどのように使い分けるのかを考えます。	○主題図の読み取りを通じて地理的事象の分布の特性を把握します。 ○異なる主題図を比較することで、空間的規則性を見いだします。
		7 地理情報システムと地図 【地図の可能性は、まだまだ広がる。】	○地理情報システム（GIS）が幅広い分野で使われていることについて理解します。 ○GIS とは何かを理解し、私たちの生活への影響を考えます。	○地理情報システム（GIS）の活用例を確認します。 ○地理院地図や今昔マップ on the webなどを操作することで、地理情報システムの特徴を把握します。
	第2章 資料から読み取る現代世界	8 交通の発達 【車、鉄道、船、飛行機が地球を駆けめぐる。】	○交通手段の多様性とその長所・短所について理解します。 ○交通手段の発達による生活の変化を考えます。	○流線図の作成やグラフの読み取りを通じて、グローバルな結び付きの変化や、各種交通手段の特徴について考察します。
		9 情報通信の発達 【世界中が、ネットでつながりはしたけれど。】	○通信情報技術（ICT）の発達について理解します。 ○通信網の発達による生活の変化と生じた課題について考えます。	○主題図やグラフを通して、情報通信技術（ICT）の普及状況の推移や地域的な傾向を読み取ったうえで、情報通信技術の普及にともなう利点と課題を考察します。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
6月		10 国境をこえる人々の移動 【仕事に、旅行に。人々は外国をめざす。】	○国境をこえる人々の動きについて理解します。 ○どのような理由で人々がどこからどこへ移動するかを考えます。	○主題図やグラフを読み取り、国際移動の現況を考察します。 ○主題図やグラフを読み取り、観光客の国際移動の特徴、観光客数の増加の社会的背景と課題について考察します。
		11 拡大する貿易 【国どうしの貿易は、どう変化しているのか。】	○世界の貿易の変化と、地域経済圏について理解します。 ○国際分業と産業の変化について考えます。	○主題図の読み取りを通して、世界の貿易の概観について把握します。 ○グラフを読み取り、貿易品目・相手国の変化と産業構造・国家間の関係の変化との関係について考察します。
		12 つながる世界、多極化する世界 【国どうしの結び付きは、世界をいかに変えるか。】	○国家間のさまざまな結び付きとその役割について理解します。 ○多極化する世界の変化について考えます。	○主題図を用いて、国家群・地域圏の変遷や課題を考察します。 ○グローバル化の具体的な事象を通して、利点と課題を考察します。
	第2編 国際理解と国際協力 第1章 人々の生活文化と多様な地理的環境 1節 生活文化の多様性と国際理解	13 文化の地域性と多様性 【肉じゃがといえど「牛肉だ！」「豚肉だ！」】	○文化は持続することもある一方で、変容することもあることを理解します。 ○地域によって文化が異なる理由を考えます。	○写真や具体例を用いて、文化とその多様性について理解します。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
7月	2 節 生活文化 と自然環境① 地形	14 山地の暮らし 【山に住むには、 どんな工夫が必要 なのか。】	○山地におけるさまざ まな暮らしの工夫に ついて理解します。 ○山地における自然的、 文化的なめぐみに気 づき、持続可能な利用 方法について考えま す。	○写真を用いて、山地に 暮らす人々の生活を 理解します。 ○図を用いて標高の違 いに対応した人々の 工夫を理解します。
		15 平野の暮らし 【流れる川が、地 形を変えていく。】	○河川がつくる平野の 小地形について理解 します。 ○宅地化による土地利 用の変化が、どのよう な影響をもたらして いるかを考えます。	○写真や地図を用いて、 河川がつくる地形と その利用について理 解します。
		16 海岸の暮らし 【さまざまな海岸 と、そこでの暮ら しとは。】	○さまざまな海岸の地 形とその利用につい て理解します。 ○海岸の地形が自然的、 人為的要因によって 変化していることを 理解します。	○写真や模式図を用い て、海岸地形とその利 用について理解しま す。
9月	3 節 生活文化 と自然環境② 気 候	17 多様な気候と その分布 【なぜこれほど違 う？暑さ、寒さ、雨 の量。】	○大気の大循環によっ て生じる気圧帯につ いて理解します。 ○気温や降水量に地域 差が生じる原因を理 解し、それらが衣食住 に与える影響を考え ます。	○地図を用いて、気温の 高い／低い地域や降 水量の多い／少ない 地域の分布をとらえ ます。 ○写真を用いて、地域に よる気候の多様性を 理解します。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		<p>18 熱帯の人々の暮らし</p> <p>【強い日差しと激しい雨。人の暮らしと農業は？】</p>	<p>○熱帯の各気候区における降水量とその季節変化の違いについて理解します。</p> <p>○熱帯における土壌や植生の特徴を理解し、人々の生活や文化に与える影響を考えます。</p>	<p>○雨温図の読み取り方を学び、気候区ごとの特徴を理解します。</p> <p>○写真を用いて、自然環境とそれに対応する人々の生活の様子を把握します。</p>
		<p>19 乾燥帯の人々の暮らし</p> <p>【雨が少ない！どうやって水を得る？】</p>	<p>○乾燥帯の各気候区における降水量の違いについて理解します。</p> <p>○乾燥帯における土壌や植生の特徴を理解し、人々の生活や文化に与える影響を考えます。</p>	<p>○雨温図を読み取り、気候区ごとの特徴を理解します。</p> <p>○写真や模式図を用いて、自然環境とそれに対応する人々の生活の様子を把握します。</p>
		<p>20 温帯の人々の暮らし</p> <p>【冷房不要の地域からストーブ不要の地域まで。】</p>	<p>○温帯の各気候区における気温・降水量とその季節変化の違いについて理解します。</p> <p>○温帯における土壌や植生の特徴を理解し、人々の生活や文化に与える影響を考えます。</p>	<p>○雨温図を読み取り、気候区ごとの特徴を理解します。</p> <p>○写真を用いて、自然環境とそれに対応する人々の生活の様子を把握します。</p>
		<p>21 亜寒帯・寒帯の人々の暮らし</p> <p>【長い冬を過ごすための食料や、町の工夫とは。】</p>	<p>○亜寒帯・寒帯の各気候区における気温・降水量とその季節変化の違いについて理解します。</p> <p>○亜寒帯・寒帯における土壌や植生の特徴を理解し、人々の生活や文化に与える影響を考えます。</p>	<p>○雨温図を読み取り、気候区ごとの特徴を理解します。</p> <p>○写真を用いて、自然環境とそれに対応する人々の生活の様子を把握します。</p>

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
10 月	4 節 生活文化 と社会環境① 産業	22 食生活と農業 の分布 【人の食生活は何 によって決まるの だろうか。】	○自然環境の面から、食 生活の地域差につ いて理解します。 ○社会環境の面から、農 業形態の地域差につ いて理解します。 ○食文化に多様性が生 じる理由について考 えます。	○写真や主題図を用い て、世界の食文化の多 様性と農業の地域性 について考察します。
		23 工場立地の変 化 【工場は、どんな 理由でどんな場所 に建つのか。】	○工業立地について理 解します。 ○労働集約的な工業の 立地が移動する理由 を理解します。 ○新興工業国と先進国 との間で工業の特徴 に違いが生じる理由 について考えます。	○写真を用いて、さまざ まな工業の特徴を把 握します。 ○主題図を用い、国や地 域ごとの工業の違い と、その要因を考察し ます。
		24 小売業の立地 と人々の生活 【売り方も、買い 方も、社会ととも に変化する。】	○小売業の立地の違い について理解します。 ○モータリゼーション の進展とインターネット の普及により、小 売業にどのような変 化が生じたのかを考 えます。	○写真や図を用いて、さ まざまな小売業の特 徴を把握します。 ○図を用いて、近年にお ける小売業の変化と その要因を考察しま す。
		25 情報産業の発 達と生活文化の変 化 【ものづくりも働 き方も、ICT が変え ていく。】	○情報産業の発展によ る世界の変化、産業の 情報化とそれに伴っ て生じる課題につ いて理解します。 ○情報化社会における 働き方について考え ます。	○写真や図を用いて、情 報通信技術（ICT）が さまざまな産業の情 報化に寄与している ことを把握します。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
11月	5 節 生活文化と社会環境②宗教・民族	26 宗教と人々の暮らし 【宗教に根ざした、習慣や文化がある。】	○世界の宗教の分布について理解します。 ○宗教ごとに特徴的な生活習慣や規範があることを理解します。 ○宗教文化やその分布の変容と、それをもたらす背景について理解します。	○写真を用いて、さまざまな宗教のもつ特徴を把握します。 ○地図を用いて、世界の宗教分布について歴史的背景を含めて理解します。
	第2章 さまざまな地球的課題と国際協力 1 節 地球環境問題	27 地球環境問題(1) 【大気と海に、何が起こっているのだろうか。】	○地球温暖化や海洋プラスチックごみの拡散の現状や原因について理解します。 ○生産・消費活動により環境問題が発生することを理解し、解決に向けた取り組みを考えます。	○主題図を用いて地球環境問題の分布について視覚的にとらえます。 ○グラフから地球温暖化の現状を把握し、その背景・要因とそれがもたらす問題について考察します。
		28 地球環境問題(2) 【森林減少と砂漠化、その原因を探る。】	○森林の減少や砂漠化の進行について理解します。 ○森林の減少や砂漠化が人間の活動によって引き起こされていることを理解し、改善に向けた取り組みを考えます。	○熱帯林破壊や砂漠化によってもたらされた問題をふまえ、問題解決のあり方について追究します。 ○写真を用いて森林減少の現状を理解し、模式図を用いて砂漠化のメカニズムを考察します。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
	2 節 資源・エネルギー問題	29 資源・エネルギーの偏在 【誰もが、欲しがる。だから、取り合いに。】	○資源・エネルギーの生産地と消費地は地理的に離れていることを理解します。 ○新興国のエネルギー需要の増加を理解し、資源をめぐる対立が生じる要因を考えます。	○主題図やグラフを用いて、エネルギー消費の南北格差の現状とその背景について考察します。 ○グラフを用いて、原油価格の推移とその背景について国際政治・経済との関わりから考察します。
		30 化石燃料から再生可能エネルギーへ 【地球を、「電池切れ」にさせないために。】	○エネルギー資源の種類について理解します。 ○再生可能エネルギーへの関心が高まった背景を理解し、再生可能エネルギーの割合の拡大が容易ではない要因を考えます。	○写真やグラフを用いて、地球社会の持続可能性という観点から望ましいエネルギー政策について考察します。
	3 節 人口問題	31 人口問題 (1) 人口の増加 【人が増えたのはなぜ？何が問題なのだろう。】	○18 世紀後半以降から現在にかけての世界の人口推移とその背景を理解します。 ○人口増加が著しい地域があることを理解し、その要因・影響を考えます。	○グラフや主題図を用いて世界の人口分布と人口増加の特徴を把握し、その背景について考察します。
		32 人口問題 (2) 少子高齢化 【若者が減り、高齢者が増えるとどうなる？】	○特に先進国において少子高齢化が進む背景とその影響について理解します。 ○少子高齢化対策として先進国で行われている取り組みを理解し、その成果や課題を考えます。	○人口ピラミッドの作成やグラフの読み取りを通じて、先進国の抱える人口問題とその対策について考察します。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
12 月	4 節 食料問題	33 食料需給をめぐる問題 【増産しても、まだ足りない。なぜだろう。】	○食料問題が生じる背景について理解します。 ○食の安全に関する問題について知り、その対策について理解します。	○主題図やグラフを用いて、世界の食料増産・供給の地域差を認識し、食料問題の存在を把握します。 ○食の安全に関する問題について、身近な食品を例に考察します。
	5 節 居住・都市問題	34 発展途上国の居住・都市問題 【人は、何を求めて都市に向かうのか。】	○発展途上国で進む都市人口の増加の背景を理解します。 ○発展途上国の大都市で生じている経済格差や都市問題について理解します。	○都市問題発生の要因を、都市化の過程との関わりから考察するとともに、問題解決へ向けての具体的な取り組みを把握します。
		35 先進国の居住・都市問題 【なぜ、再開発が必要なのか。】	○先進国の都市化と郊外化、そして都市再開発までの動きとそれぞれの背景について理解します。 ○都市再開発に伴って生じる新しい問題について理解します。	○写真から都市の景観の変化を読み取り、再開発による変化を視覚的にとらえます。 ○地図やグラフから再開発の必要性を考察し、持続可能な社会を実現する再開発のあり方を追究します。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
1月	6節 民族問題・紛争と平和の構築	36 民族問題・難民問題 【くり返す対立で、国を迫られる人々がいる。】	○ヨーロッパで起こった難民危機を手がかりに、難民と民族問題について理解します。 ○民族問題や紛争の歴史的背景について考えます。	○主題図を用いて、難民が発生する地域と難民を受け入れる地域の地理的関係を考察します。 ○民族問題・紛争の歴史的背景について、具体的な事例をあげて考察します。
	7節 持続可能な社会の実現をめざして	37 地球的課題と国際協力 【グローバルな課題を、解きほぐす糸口とは。】	○地球規模で取り組むべき課題が、相互に関連しあっていることを理解します。 ○先進国と発展途上国の対立などの課題があることを理解し、持続可能な開発のための解決法を考えます。	○地球的課題の解決へ向けてのさまざまな国際的取り組みとその課題を整理します。 ○持続可能な社会の実現へ向けての世界各地での取り組みの事例について考察します。
	第3編 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境の特色	38 日本の地形の特色 【火山や、流れの速い川。日本は動き続けている。】	○プレート境界と日本列島の位置関係について理解します。 ○日本列島の地形の特徴について理解します。 ○日本の河川や海岸の特徴について理解します。	○主題図を用いて、日本の位置と地形の特徴の関係について考察します。 ○地形の特徴と人々の生活との関係性について考察します。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		39 日本の気候の特色 【四季ある国の、季節ごとの天候は？】	○日本の春夏秋冬それぞれの季節の天候を特徴づける気団を理解します。 ○日本国内の気候区分と各地域の気候の特徴を理解します。	○日本列島の季節ごとの天候の変化の要因について主題図の読み取りを通して考察します。 ○主題図や雨温図の読み取りを通して、日本の気候環境の多様性について考察します。 ○日本列島の気候の特性に応じた人々の生活形態について、具体的事例をあげて考察します。
	2 節 さまざまな自然災害と防災	40 地震災害・津波災害(1) 【地震が発生するメカニズムとは。】	○プレート境界地震とプレート内地震の違いについて理解します。 ○震源の位置によって、引き起こされる災害に違いがあることを理解します。	○地震や津波の発生メカニズムについて模式図を用いて考察します。 ○地震や津波によってもたらされる被害の状況について、複数の写真を用いて考察します。
		41 地震災害・津波災害(2) 【くり返す地震を、災害史から学ぶ。】	○過去の災害の記録が今後の災害の軽減につながり得ることを理解します。 ○地震による被害が増大しやすい地形分類を理解します。 ○ハザードマップを利用し、身近な地域の自然災害の可能性を考えます。	○主題図や写真を用いて、地震や津波の発生頻度とその周期性について考察します。 ○自宅もしくは学校周辺地域の地形分類を確認し、ハザードマップを用いながら災害時に取るべき避難行動について考察します。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
2月		42 火山の災害とめぐみ 【火山をよく知り、共存していくために。】	○日本列島において火山活動が活発な理由を、プレート境界や日本の位置を振り返りながら理解します。 ○火山活動にともなう災害の種類を理解します。 ○火山がもたらすさまざまなめぐみを理解します。	○火山災害のメカニズムについて、図や写真を用いて考察します。 ○火山のもたらす恩恵について具体例をあげながら考察します。
		43 気象災害(1) 寒さ・暑さと台風 【雪、猛暑、水不足、台風。どんな被害をもたらす？】	○季節によって発生しやすい気象災害とその特徴について理解します。 ○季節によって発生しやすい気象災害の要因・影響について考えます。	○季節ごとに生じる気象災害の原因について考察します。 ○季節ごとに生じる気象災害がもたらす被害の状況や人々の生活に与える影響について、写真を用いて考察します。
		44 気象災害(2) 大雨と洪水・土砂災害 【大雨で、あふれる水。何が起こるのだろう。】	○外水氾濫と内水氾濫の違いやその対策について理解します。 ○土砂災害の発生のメカニズムを理解し、被害を受けやすい場所の特性について考えます。	○大雨がもたらす各種災害とそれらのメカニズムについて、模式図を用いて考察します。 ○大雨がもたらす各種自然災害の軽減に向けた対応策について、写真やハザードマップを用いて考察します。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
3月		45 都市と自然災害 【都市を襲う災害、危険はどこにある？】	○都市特有の災害の種類と特性について理解します。 ○都市特有の災害についての要因・影響を考え、都市部で災害が発生した際にどのような行動をとるべきかを考えます。	○都市における各種災害の発生要因について、写真や地理院地図を用いて多面的に考察します。 ○都市における各種災害がもたらす被害の軽減に向けた対応策について、ハザードマップや写真を用いて考察します。
		46 防災・減災と復旧・復興 【地域を災害から守るため いま、できることは？】	○大規模災害への対応策について、自助・共助・公助の観点から理解します。 ○これまでの災害の教訓を生かし、特に、自助・共助に関して講ずるべき対策について考えます。	○防災・減災へ向けた各地域における取り組みについて、自助・共助・公助の観点から写真を用いて考察します。 ○防災・減災へ向けた公助の取り組みには限界があり、自助・共助の観点から意識を高める必要があることを、さまざまな取り組みを概観することで考察します。
	第2章 生活圏の調査と地域の展望	47 調査テーマの設定 【学校のまわりの、地理的テーマを探せ！】	○身近な地域の変遷を新旧地形図の読み取りなどから理解します。 ○身近な地域の課題に対して異なるスケールを織り交ぜて考察し、調査テーマを設定します。	○学校周辺地域における新旧の地形図や統計資料を用いて地域の変容について考察します。 ○地域調査の一連の流れをふまえながら、学校周辺地域で生じている複数の課題を見だし、班ごとに調査テーマを設定します。

月	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		48 地域調査(1) 資料調査 【「○○かな？」まずは仮説を立ててスタート。】	○身近な地域の情報を得るためのさまざまな手段と注意点を理解します。 ○身近な地域で生じている課題の要因をさまざまな角度から分析し、仮説を設定します。	○身近な地域の調査に必要な資料収集の方法について習得します。 ○身近な地域の課題の解決に必要な仮説の設定・検証の方法について、資料調査を通して習得します。
		49 地域調査(2) 野外調査 【どこを歩いて誰に聞くか。計画が大切だ。】	○目的に応じた野外調査の方法を理解します。 ○野外調査を計画し、実施に向けた手順を考えます。	○身近な地域における野外調査の手順について計画作成段階から実施段階までの流れを軸に習得し、野外調査を実施します。
		50 まとめと発表 【地域のこれからを、皆で考えていくために。】	○地域調査のまとめ方について理解します。 ○調査結果に応じてまとめ方や発表形式を選択し、身近な地域の課題解決に向けた発表の手順を考えます。	○調査内容の分析結果を的確にまとめる方法について習得し、まとめを行います。 ○調査の成果を校内もしくは校外で発表する方法について習得し、クラス内もしくは校内で発表します。

4 評価の方法

(1) 評価の結果を生かす

評価は自分自身の学習の過程や成果を確認するためになされるものです。このことをしっかり確認し、不十分な点があればその後の学習につなげるようにしましょう。そのためにも、返却されたテストやレポート、自己評価などの見直しを徹底しましょう。

(2) 評価の観点

評価は学習で身に付ける力を次の三つの観点から把握するようにします。

知識・技能	<p>○地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解している。</p> <p>○地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。</p>
思考・判断・表現	<p>○地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。</p> <p>○考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>○知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。</p> <p>○地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p> <p>○多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などが深まっている。</p>

(3) 評価の時期と方法

ア 年5回の定期考査では、ペーパーテストによって出題範囲における知識と資料活用 of 技能の習得の状況、思考・判断・表現を評価します。

イ 課題追究学習の際のレポートを評価のための資料とします。課題の設定・追究学習を行う際には、「WARM UP」「WORK」「SKILL UP」「TRY」「発展」「GLOBAL REPORT」などを参考にしてください。

ウ 学習活動の様子や発表、討論、論述などの内容を評価のための資料とします。

エ 授業に対する自己評価や振り返りを記入したワークシートを参考とします。学習内容の振り返りを行う際には、章末の「まとめ」などを参考にしてください。

(4) 評定について

評定は、上記の方法で得られた評価に関する情報を総合的に判断して行います。